

第15回 JICA 理事長表彰 十勝から3個人・団体が「JICA 理事長賞」を受賞

国際協力機構（JICA）では、毎年、国際協力事業を通じて開発途上国の人材育成や社会発展に多大な貢献をされた個人・団体に対し、その功績を讃え、表彰しております。

第15回を迎える今年度は、58個人・団体に「JICA 理事長賞」を授与することを決定しました。このうち道東地域からは、以下の3個人・団体の受賞が決定いたしました。

つきましては、受賞者への取材および貴紙への記事の掲載を何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、国内在住の受賞者を対象とした表彰式を以下の日程で開催いたしますので、当日の取材もご検討ください。

【第15回 JICA 理事長表彰 道東地域の受賞者一覧】(50音順)

- ・帯広商工会議所／(株)とかち製菓
- ・(株)十勝毎日新聞社
- ・米倉進氏(帯広市農業振興公社 農政アドバイザー)

【第15回 JICA 理事長表彰 表彰式】

日時:2019年10月8日(火) 16時00分～17時15分

場所:JICA 市ヶ谷ビル 国際会議場(東京都新宿区市谷本村町10-5)

その他受賞者(個人・団体)につきましては、JICA ホームページに掲載しておりますニュースリリースをご参照ください。

https://www.jica.go.jp/press/2019/20191001_10.html

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 北海道センター(帯広)道東業務課 沢田 / 木村
TEL 0155-35-1210

【受賞に至った経緯】(受賞者名 50 音順)

(1) 帯広商工会議所／(株)とかち製菓

帯広商工会議所は、「フードバレーとかち」政策による産業活性化の経験を活用し、2014 年から、途上国における食産業での地域ブランド確立に向けた草の根技術協力を実施してきました。その活動の一環で実施した、マレーシアでの和菓子セミナーをきっかけに、(株)とかち製菓は 2018 年に日本の工場で大福等和菓子 8 品目の製造に関するハラル認証を取得し、イオンマレーシアでハラル大福を販売する等、帯広商工会議所のサポートを得ながら、海外への輸出に積極的に取り組んでいます。この取り組みは中小企業による海外進出の好事例とされ、JICA の中小企業支援の発展に大きく貢献しました。

(2) (株)十勝毎日新聞社

十勝毎日新聞は、当センター設立以前より約 35 年に亘り、十勝における JICA 研修事業、草の根技術協力等の事業に加え、地域の人々と JICA 研修員の交流の様子を記事として数多く掲載し、地域における国際協力及び JICA 事業への理解促進に大きく貢献しました。十勝毎日新聞の十勝地域での世帯普及率は地域最多で、最近 2 年間の ODA 関連報道実績(2017 年度:185 件、2018 年度:144 件)も、ブロック紙を除いた地方紙で、トップレベルの実績を誇っています。日本国内の地方紙による JICA 理事長表彰の受賞は初めてとなります。

(3) 米倉進氏(帯広市農業振興公社 農政アドバイザー)

米倉氏は 20 年以上に亘り JICA 北海道(帯広)で実施する農業・農村振興分野研修のコースリーダーや講師として従事し、日本有数の畑作地帯である十勝の農業経験を研修員に伝え、研修員の帰国後の活動計画への指導を行ってきました。米倉氏が、十勝の農業協同組合、農業技術センター、加工・流通施設等を研修題材として取り扱い、地域と連携した研修により指導した研修員は、これまでに約 600 名となります。